

# 岩手農大同窓会会報



第 31 号

令和 6 年  
3 月 1 日

【発行・編集】岩手県立農業大学校同窓会 岩手県胆沢郡金ヶ崎町六原蟹子沢 14 TEL 0197-43-2211



## 農家の声を国政に届ける政治家現わる

岩手県立農業大学校同窓会

会 長 笹 田 昭 市

早春の候、同窓会員の皆様には、ご健勝でお過ごしのこととお喜び申し上げます。

今まで猛威をふるっていた新型コロナウイルスは、昨年夏からインフルエンザと同じ扱いとなりました。しかし、感染がなくなったわけではありませんので、まだまだお互いに気をつけて感染しないようにしたいものです。

昨年は記録的な高温が続き、皆様には農作物の栽培や家畜の飼養等でご苦労されたことと思います。今後もこのような気象があたりまえとなれば、この地球で暮らす人類にとって、食料の確保を担う農業の役割はますます大きくなっていくものと思われまます。

さて、私が昨年出席した全国同窓会連盟総会の中で、熊本県出身の参議院議員である藤木真也氏の講演会を拝聴することができました。藤木氏は、昭和 42 年生まれで、熊本県立農業高校を卒業後就農し、農協青年部長から農協組合長を歴任した後、平成 28 年に参議院比例代表選挙で自民党から出馬して当選し、現在 2 期目を努められています。藤木氏は、農業生産法人（水稲・畜産経営）の社長と国会議員の二刀流を極めながら、農家の声を国政に反映させるべく活躍されており

ます。全国の農業関係者を回って農家の意見を聞くことをモットーとしている藤木さんですが、熊本の自宅では奥さんと熊本県立農業大学校を卒業した 2 人の息子さんが経営を守っておられます。息子さんが農大在学中は P T A 会長も務められたとのこと。

現在、藤木氏は岸田総理のブレーンとして農林水産大臣政務官を務められ、食料安全保障の強化や中小家族経営・中山間地農業の支援拡充等に向けて精力的に活動されています。藤木氏の国会での活躍は、ホームページやフェイスブックでも知ることができますので、会員の皆様には是非ご覧になってみていただきたいと思ひます。

今年は元旦から能登半島地震があり、被害を受けられた方々にはお見舞い申し上げますとともに早期に復興できますようお祈りいたしております。



## 同窓会報に寄せて

岩手県立農業大学校

校長 小原 繁

岩手農大同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動の推進に多大なるご支援とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたこともあり、学生の活動もほぼコロナ前の状況に戻り、各々の目標実現に向け支援に取り組んでいるところであります。

特に、学生のみならず県民の皆様にも楽しみにしていただいている「農大祭」につきましては、農大祭実行委員長を中心に学生・教職員などの努力により、公開日数を一日に絞り、近隣の郷土芸能、農業関係メーカーの協力もあり、ほぼコロナ前と同様の環境下で一般公開とすることができました。多くの県民の方々に来校して頂くことができ、豊かな実りを感じていただいたものと、あらためて御礼申し上げます。

さて、本校卒業生の動向であります。就農する学生は、自家就農のほか、農業法人等への雇用就農という選択が拡大しており、農業を「家業」ではなく「職業」として選択する学生が数多く見られます。また、就職では農業にかかわる分野で、農業者や農村地域の振興に寄与しようとする思いをもって、JAなどの農業団体、農業機械メーカーなどへの進路を選択しているところであり、誠に頼もしい限りであります。

しかしながら、近年の本校への入学希望者の推移を見ますと、残念ながら定員割れの状況が続いております。少子化の進行により高校生の絶対数が減少している中、農業高校をはじめとした農業系学科への進学者数も減少していることが主な要因であります。一方で、高校での専攻にこだわらない進路決定もあることから、県内の全高校や近隣の高校を訪問し、本校の魅力についてPR活動に全力を挙げているところです。職業としての農業に、興味あるいは魅力を感じる高校生等にもっと本校の有益な情報を幅広く提供し、農業に携わ

る機会を提供できないものかと、日々思いをはせているところでありますが、残念ながら力不足を感じざるを得ません。

本校を卒業された3,000名を超える同窓生におかれましては、それぞれが、農業の担い手や農村のリーダーなど様々な立場で先頭に立って農業振興にご尽力、ご活躍いただいております。こうしたご自身の活躍を地元の中학생、高校生等にアピールしていただくことが、本校新入学生の発掘と将来の担い手の確保につながるものと期待するところであり、同窓会員の皆様のご協力をお願いいたします。

結びに、同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げ挨拶といたします。



農大HP



農大FB

- 新たな旅立ちにあたり -

## 今春卒業し、同窓生の仲間入りをする学生からの寄稿



学んだことを活かして

農産経営科2年 穴山 沙稀

私は、農業大学校で主に稲作について学びました。高校時代も農業について学んでいましたが、農業機械の操作など自ら実践する場面が多く、慣れるまでは大変でしたが、多くの経験を積むことができました。また、卒業研究では飼料用米の多収化について取り組み、苦勞した分、多くの知識を身に付けることができました。

卒業後は、岩手中央農業協同組合に就職します。これまでに農大で得た知識や経験を生かして精一杯頑張りたいと思います。



農大での忙しく充実した2年間

農産経営科2年 梶原 来叶

農業大学校入学前の楽しみな気持ちと不安な気持ち、先輩達の優しいリードにより楽しい学校・寮生活がスムーズに始まったことが思い出されます。また、専攻実習や卒業研究等で忙しく充実した日々が続き、あっという間の2年間だったと思います。

私は、4月から北上市機械化農業公社に就職します。農大で学んだ知識をしっかりと活かし、構築した先輩、同級生、後輩達との人脈を生かし、農業の発展のために励んでいきたいと思っています。



「2年間で学んだこと」

野菜経営科2年 佐藤 翔

私は、将来農業をやりたいと思い、本校野菜経営科に入学しました。入学当初は野菜に関する知識も経験も乏しい状態でしたが、この2年を通して栽培から経営まで幅広く学ぶことができました。また、事例研究では、様々な農家や農業関連企業などを視察し、農業の大変さ、地域の人との関わり、流通等について知ることができました。卒業後は、(株)いやさか農園に就職し、2年間の経験を活かして会社に貢献できるよう頑張りたいです。



「濃い2年間」

野菜経営科2年 村岡 輝

この2年間、事業や実習を通じて野菜の知識や技術を学ぶことができました。特に卒業研究では、自ら選定した課題の解決に向け、先生方やクラスの仲間たちに協力して頂きながら栽培管理をしました。ここで得たことは、私の将来に必ず役立つと思いますし、活かしていきます。卒業後は、岩手ふるさと農協に就職します。仕事を通じて、農業の知識を高めながら、多くの人々を農業で支えられるよう仕事に励みたいと思っています。



「農大での2年間と、これから」

果樹経営科2年 梶舘 菜美

私は、座学や実習だけでなく、県内外の事例研究などを通じて果樹の栽培技術について学ぶことができました。農大での2年間はあっという間で、寮生活やイベント行事など、とても楽しく貴重な時間でした。4月からは二戸市地域おこし協力隊として働きます。農大で2年間学んだ果樹栽培の技術や知識を活かし、地域おこし協力隊員として、二戸市の地域活性化に貢献していきたいと思っています。



農大で得たものと目標

果樹経営科2年 平賀 亜衣

私は、この2年間で実習や事例研究などを通して、技術や知識だけでなく、改めて農業の楽しさや魅力を感じました。また、頼もしい仲間ができて、学校も寮生活も毎日が充実していました。卒業後は(株)菅野農園で働き、将来的には独立してリンゴや桃を栽培しようと考えています。本県の果樹栽培はリンゴが主であり桃はあまり普及していないため、菅野農園で栽培技術や経営方法について学び、妥協せず、理想の農業をしていきます。



成長

花き経営科2年 岩清水 結衣

私は、祖父母が農業を営んでいたことがきっかけで、農大に入学しました。

農大では、熱意にあふれる先生方、明るい仲間にも恵まれ、充実した2年間になったと思います。実際に見聞きし、自分の手で触れる、実践的な学びを得ることができました。特に、日々の栽培管理を通じて、観察眼や、命を育てる責任感が養われたと感じます。

卒業後は、一関市の鉢花生産者のもとに就農します。農大での経験を糧に、美しい花を咲かせるべく努力を続けていきます。



2年間を通して

花き経営科2年 八重樫 のどか

私は、実家が農家ということで農業を身近に感じており、岩手農大へ入学しました。実習では、播種から収穫、薬剤散布などを様々な花き品目で行い、技術を身に付けることができました。さらに、事例研究で実際にたくさんの現地を見て、たくさん学ぶことができました。

卒業後は、ベルグアース株式会社に就職します。農大で学び、身に付けた技術を活かして貢献できるよう、社会人の自覚をもって頑張りたいです。



2年間の農大生活

酪農経営科2年 菅野 光輝

将来酪農をするにあたり、知識が必要だと考え農大に入学しました。2年間の農大生活の中で家畜の飼養管理や粗飼料生産、関係法規に経営管理など様々なことを学ぶことができました。農大で取得した家畜人工授精師などの資格を活用して牛群の改良を行っていきたいです。卒業後は花巻市の農業法人に就職します。日々の仕事の中で経験を積みながら、更なる技術向上を図っていこうと思います。



新しい門出

酪農経営科2年 庄司 吏希

私は、高校では動物科学科の大動物班として牛について学びました。農大では酪農経営科を専攻し、日々の実習や当番でより実践的な知識をつけることが出来ました。また寮生活を通して多くの仲間達と互いを高め合うことが出来ました。

卒業後はキロサ肉畜生産センターに就職します。酪農ではありませんが農大での経験が必ず活かせると考えています。これからも農業について学びながら生きていきたいと思っています。



岩手の畜産業を盛り上げたい！

肉畜経営科2年 杉澤 龍星

私は、高校まで野球に打ち込んでいたため全く牛に触れ合う機会がありませんでしたが、実家の和牛繁殖経営を継ぎたいという思いで農大に入学しました。入学後は、授業や当番を通じて牛に関する知識と技術を習得することができ、毎日が充実して楽しかったです。

卒業後は、JA 新いわてに人工授精師として就職します。今後は、人工授精師として技術を磨き、岩手の人工授精師と言ったら杉澤龍星と言われるよう努力していきます。



実践的な学びを得られた2年間

畜産経営科2年 高橋 夢生

私は4月からJAいわて花巻に就職します。農業大で学んだことを活かし、農協職員として岩手の農業の一端を担っていきたく思います。農大での学びは、知識を現場とすり合わせる機会が多く、実践的な学びであったと感じます。畜産農家の視察が多くあり、教室で学んだ知識が現場でどう使われているかを学べるのはとても有意義でした。今後は、農大での学びを地域に還元できる人材になっていきたいと思っています。

## ◆ 支部だより ◆

## 奥州支部

## 「果樹経営に憧れて奮闘中」

奥州支部長 及川 良直

奥州市江刺伊手に在住、江刺りんごの魅力向上に挑戦している立花奎太さんを紹介します。

立花奎太さんは、北海道帯広市の非農家出身で果樹経営に憧れ、元気に活動している好青年です。高校時代、テレビ放映された木村憲秋さんの「無農薬・奇跡のりんご」と題した番組を見て、強い感銘を受け、より深い興味を持ったことで岩手での生活となりました。

奎太さんは、平成 29 年岩手県立農業大学校果樹経営科に入学されました。農大では、果樹経営の基本技術を学ぶとともに、“無農薬のりんご栽培でもうかる農業を目指して”と題する卒業研究に取り組みました。そこで、無農薬でのりんご栽培の難しさを知りました。益々りんご栽培へ挑戦する気持ちが強くなり、令和元年卒業と同時に、(株)菅野農園に入社しました。



《立花 奎太さん》

きっかけは、学生時代に当農園で友人とアルバイトでお世話になったこと、働きやすい環境で、しかも楽しい職場であったこと等の経験から決断したようです。

菅野農園は、江刺りんご 9 ha を中心に、桃 1.2ha、プルーン、洋梨、ぶどうなど計 12ha の園地を管理。正社員 8 人、パート 9 人を雇用する多機能型就労支援施設にも認定された障害者の就労体験施設でもあります。

立花奎太さんは、入社 1 年目で果樹全般の栽培管理、2 年目から桃栽培の担当となり販売企画も任されています。これは本人が温厚な性格で仕事熱心なのと接客対応に卓越した才能が認められたことによるものと思います。固定観念に捕らわれた販売ではなく、時代に応じた販売法の採用など、園主から高評価を得たことなども上げられます。

当園は、江刺ふるさと市場やイオン内の産直 (40%)、ネット販売 (30%)、全国契約店 (30%) に販売しています。

奎太さんは、将来自分の果樹経営を目指し園地獲得を始めています。更に桃の植栽 40 a に着手するなど着々と自分の夢に向かって進行中です。当面、夏は桃栽培管理、冬は社員として働き、経営基盤の確保に努力しているところです。

農業環境の急激な変化が進む中、移住による経営開始や新規農業者の先達として期待します。



## 久慈支部

## 山形村短角牛に情熱を傾けて

久慈支部長 佐々木 久志

久慈市の地域おこし協力隊として活躍する小野沢りんさんを紹介します。

小野沢さんは、長野県伊那市出身で、地元の農業高校在学中に和牛4品種の一つである日本短角種（以下、「短角牛」）に興味を持ったことがきっかけで、岩手県立農業大学校に入学し短角牛の放牧飼育や黒毛和種の飼育について学びました。

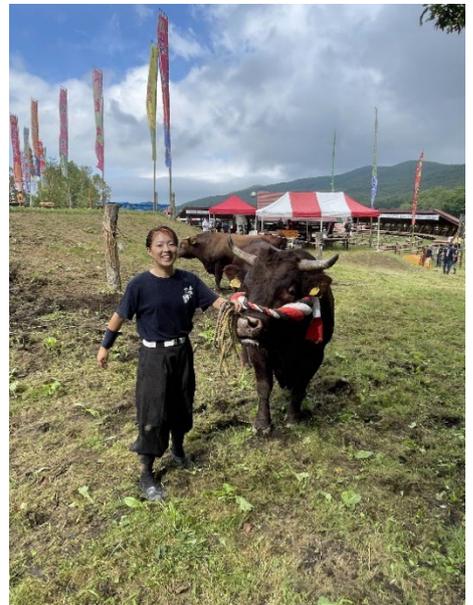
農業大学校卒業後は、肉牛の繁殖・肥育管理について幅広く学ぶため岩手県内の和牛一貫生産農家に就職しましたが、短角牛の生産・精肉加工の仕事がしたいと考え、短角牛の生産が盛んな久慈市の地域おこし協力隊に入隊し、久慈市山形町を拠点に活動を行っております。

活動拠点である山形町は、短角牛生産農家の高齢化と人手不足が深刻な状況であり、山形村短角牛を盛り上げるため、農業大学校で学んだ知識と経験を活かし生産農家の飼養管理を手伝うとともに、令和5年には、自身も短角牛の肥育素牛を購入し肥育を始めています。

また、高校時代から肉を捌くことにも興味をもっており、精肉加工技術を習得するため、短角牛を専門に扱っている短角考房「北風土」で修業しています。将来は自分が育てた短角牛を捌くことや、地域で獲れるジビエも加工していきたいと励んでいます。

このほか、地域のイベントにも積極的に参加しており、東北地方で唯一開催されている平庭闘牛大会に女性の勢子（せこ）として参加しています。普段の飼養管理で牛の扱いには慣れているといっても闘牛となれば別で、自身より遥かに大きい闘牛を目の当たりにすると、やはり怖いといいます。それでも、経験を積み勢子の技術を磨きたいと意欲を見せています。そして闘牛を通じて、山形村短角牛肉をPRし、多くの人に味わってほしいといいます。

小野沢さんには、地域おこし協力隊の活動や闘牛に取り組むことで、短角牛への学びを更に深めてもらうとともに、山形村短角牛の振興に寄与していただけるよう期待しています。



《小野沢 りんさん》

## Wild Cup 2023 に参加しました！

「岩手県農林水産部政策提案型調査研究コンテスト Wild Cup 2023」が、令和5年8月9日～10日に盛岡市で開催され、野菜経営科、果樹経営科、肉畜経営科、酪農経営科の1年生がエントリーし、肉畜経営科が発表した「ETが切り拓く酪農と肉用牛生産の未来」が優秀作品「第3位」同じく酪農経営科が発表した「牛の能力を牛っと！～ゲノムの新しい酪農を～」が「学生グループ部門最優秀賞」を受賞しました。



Wild Cup 2023 受賞式

## 東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見交換会に出場しました！

令和6年1月17、18日に東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会が北海道で開催されました。本校からは、校内発表会で選抜された5名の学生が代表として出場しました。本番では、それぞれの学生が練習の成果をしっかりと発揮して堂々と発表を行いました。審査の結果、「プロジェクト発表部門」で果樹経営科2年高橋 綸さんが「優秀賞」に選ばれ、2月に東京で行われる全国大会に出場が決まりました。



出場者の5名



優秀賞受賞の高橋 綸さん

## 元気の出る農業セミナーを開催しました

農業や農政の現状と課題を学び、今後の地域農業や農村振興について理解を深めることを目的として、11月16日に全学生と県民を対象に、「令和5年度 元気の出る農業セミナー」を開催しました。

当日は、花巻市で果樹経営に取り組む宇津宮邦昭氏、奥州市で肉用牛繁殖経営に取り組む安倍諒氏のお二人から就農に至った経緯、現在の課題と今後の目標、地域を活性化したいという熱い想いをうかがいました。



講演者の宇津宮 邦昭氏



学生から質問！



講演者の安倍 諒氏

# 「農大祭」

## 今年も大盛況でした！！



「2023 農大祭は「みんなでゲットだぜ！“農業の新時代”と“可農性”」をテーマに10月28日から29日に盛大に開催されました。

1日目は外部公開とし、学習展示や各経営科の農畜産物の模擬店、チャグチャグ馬コとの交流会、子供たちによる六原鬼剣舞の演舞や農業機械の展示などを設け、多くの方にご来場いただきました。大変感謝申し上げます。



【農産経営科】



【酪農経営科】



【花き経営科】



【肉畜経営科】



【果樹経営科】



【野菜経営科】

## 令和6年3月卒業予定者の進路状況

令和6年1月31日現在

| 区分       | 進 路 先   |
|----------|---|
| 就 農 7名   | 県内：二戸市、一関市、奥州市、一戸町、住田町<br>県外：秋田県（羽後町）、宮城県：（蔵王町）   |
| 雇用就農 21名 | (株) いやさか農園、花泉園芸、(株) 菅野農園、(一社) 北上市機械化農業公社、(株) 西部開発農産、(株) JA グリーンサービス花巻、(株) エーデルワイン、農事組合法人 アグリドーム、ベルグアース (株) 花巻農場、(株) 大越青果、(株) ポタジェガーデン、北日本JA畜産 (株) 藤沢牧場、胆江地区酪農ヘルパー利用組合、(株) おおばファーム、(株) 高田畜産、(有) アグリファイン、(有) キロサ肉畜生産センター、花北酪農ヘルパー利用組合 |
| 農業団体 8名  | JA 全農いわて、JA 岩手ふるさと、JA いわて花巻、JA 新いわて、JA 秋田ふるさと<br>JA みやぎ登米   |
| 農業関連 5名  | (株) みちのくクボタ、(株) いわちく、クボタグリーンサービス(株)   |
| 一般企業 2名  | (株) コメリ、(株) 小笠原プレジジョンラボトリー  |
| 公務員等 3名  | 二戸市、(独法) 家畜改良センター、(国立研究開発法人) 農業・食品産業技術総合研究機構  |
| 進 学 1名   | 秋田県立大学生物資源科学部   |